

平成 26 年度第 2 回京都大学防災研究所自然災害研究協議会議事録

日 時：平成 26 年 9 月 11 日（木）16 時 30 分～17 時 30 分

場 所：京都大学宇治おうばくプラザ セミナー室 1

出席者（敬称略）吉田、川邊、吉岡、緑川（代理：高井）、松澤、長田、廣岡、飯高、釜井、松浦、横松、小林、越山、岩波、辰己、鈴木

オブザーバー（敬称略）：大志万（所長）、寶（前議長）、川瀬（副所長）、

（文部科学省）：丸山、（防災科学技術研究所）：臼田（代理：中須）、（事務局）：織田山本

配布資料：

資料 1 京都大学防災研究所自然災害研究協議会出席者名簿

資料 2 平成 26 年度第 1 回京都大学防災研究所自然災害研究協議会議事録（案）

資料 3 地区部会活動報告及び活動計画

資料 4 地震・火山科学と総合防災学の両共同研究拠点主催シンポジウム

・開会に先立ち、文部科学省研究開発局地震・防災研究課防災科学技術推進室 丸山秀明室長並びに京都大学防災研究所長 大志万直人教授より挨拶があった。

・本協議会の出席者（代理）の確認（資料 1）があった。また、新たに 6 号委員になられた東京農工大学の辰巳賢一助教の紹介がなされた。

議 事：

1. 前回議事録（案）の確認について（資料 2）

廣岡議長より資料に基づき説明がなされ、協議会終了までに修正等の指摘はなく、前回議事録として了承された。

2. 地震・火山科学と総合防災学の両共同研究拠点主催シンポジウム（資料 4）

先に、防災研究所：川瀬副所長より拠点間連携について報告がなされた。課題募集型研究について 21 件の応募があり、審査の結果 12 件を採択した。また、資料 4 に基づき、次年度開始の参加者募集型共同研究の内容設計のため、10 月 6 日及び 7 日にシンポジウムを開催する旨の報告がなされた。

防災研究所：寶教授より上記のシンポジウムに関して、人文社会科学分野の研究者の参加を促す取組について質問があり、川瀬副所長よりワーキングで担当者を決めて、各分科会に対するリサーチ及び個別の参加依頼を実施している旨の説明がなされた。

3. 地区部会活動報告及び活動計画について（資料 3）

本部及び各地区部会から活動報告及び活動計画について報告がなされた。

本部及び各地区部会の主な報告項目：

- 本部地区：科学研究費補助金（特別研究促進費）が採択された。広島で起きた突発災害について、災害発生後、突発災害員会では対応を検討し、中国地区部会代表の山本晴彦先生に調査依頼を行うと同時に、本省にも調査の提案を行った。本省からは迅速な対応を頂いた旨の報告がなされた。
- 北海道地区：8月21日に幹事会を開催し、現在フォーラム開催について計画中有る旨の報告がなされた。
- 東北地区：研究集会及び地区部会総会の開催、会誌の発行、シンポジウム等の共催等を予定している旨の報告がなされた。
- 関東地区：市民科学オープンフォーラムを地盤工学会関東支部10周年記念事業として共同開催する旨の報告がなされた。
- 中部地区：南海トラフ巨大地震中部地域地盤災害研究委員会より、地域防災実践型共同研究（特定）に応募し採択された旨の報告がなされた。幹事会2回開催、活動の具体化をWGの活動報告を行った。27年3月に中部地区研究集会の開催を予定している旨の報告がなされた。
- 近畿地区：近畿地区部会を発足した。今後、メーリングリストを作成しスケジュールを報告する。今後、幹事会の開催を予定している旨の報告がなされた。
- 四国地区：防災研公開講座を高知県と共同開催した旨の報告がなされた。
- 西部地区：2月6日、福岡市九州大学で、部会の研究発表会を開催する予定である旨の報告がなされた。

4. 今後の予定

第3回自然災害研究協議会は平成27年3月の中旬に開催予定。

5. その他

釜井委員より、突発災害について、文部科学省研究開発局地震・防災研究課におかれましては、迅速な対応をして頂き、強い後押しをして頂いた旨の報告がなされた。